

2024年度 岩手キリスト教学園事業計画

岩手キリスト教学園は1985年設立以来、38年の歩みが守られてきた。

法人は機関園（幼保連携型認定こども園4園と幼稚園型認定こども園1園）が連携園（小規模保育所2園、学童保育、フリースクール、家庭的保育事業、保育所）を生み出し、それぞれの地域に根ざした働きを推進してきた。園児数約700名、教職員220名を擁する学園となる。ここまでの歩みが支えられたことに感謝する。

県内2022年出生数は前年比10%減、県は人口減少対策を「最重要課題」に位置づけている。学園は各自治体及び地域との連携の充実をさらに推進し、「最重要課題」の解消に向けて取り組むべく、乳幼児の教育・保育及び子育て支援の質のさらなる向上により、地域のプラットフォームを目指す。託されているキリスト教保育（法人の理念）をもって、地域社会に貢献し、将来への歩みを見極めつつ、各施設の2024年度事業計画を策定する。

【2024年度法人本部事業計画案】

1. 法人の理念（①礼拝・人格 ②法令遵守 ③信頼・連帯）の理解と実践

- ①主イエスキリストとの交わりを大切にする。
 - ・建学の精神に基づき、各施設と関係教会との関わりを深め、キリスト教保育の充実をはかる。
 - ・礼拝出席月間をはじめ、キリスト教保育の原点である礼拝を大切にする。
- ②法人諸規程整備、コンプライアンスの周知浸透により誠実な働きをする。
 - ・諸規程理解浸透とICTを活用し労務環境のさらなる改善に向け取り組む。
 - ・スケールメリットを活かした各種の研修（新任者研修、中堅管理職研修事務担当者研修他）を開催し、コンプライアンスの理解を深めるとともに、職員の質の向上をはかる。
- ③互いに尊重し合い育ち合える職場環境をつくる
各施設を毎日祈りに覚え、また組織図及び職務を尊重し、信頼と連帯を深めて永続性のある職場環境を築いていく。

2. 学園のあり方の検討

- ①学園設立40周年（2025年度）事業の検討。40年間の歩みをまとめる
- ②法人本部機能の充実をはかり、法人本部職員体制を拡充、各部門（人事、労務、財務、渉外、広報）の働きの推進を行う。
- ③善隣館書店との連携を充実させ、地域の実情に鑑み各園に託されている子育て支援事業を推進する。
- ④国の処遇改善に伴う、職員の資質向上に向けての各種研修参加を推進する。
- ⑤次世代育成支援推進法第7期一般事業主行動計画を策定。ワークライフバランスの充実を推進する。

3. 学園評価

学園評価は16年目（6巡目に入る）。評価委員会の任期満了による構成員が交代となる。評価のあり方（自己評価項目の見直しや利用者アンケート内容）の改善をはかり、各園のキリスト教保育の充実に貢献する。

4. 理事会、評議員会の開催予定（会場は予定である）

- | | |
|----------|----------|
| 5月31日（火） | 奥羽教区センター |
| 9月27日（木） | 館坂橋教会 |
| 2月28日（木） | 館坂橋教会 |

【2024 年度青山幼稚園事業計画】

建学の聖句「ひかりの子として歩みなさい」

保育理念「神を愛し人を愛すること」

1) 70年の歩みの感謝と建学の理念のさらなる深化

- ・ 70年の歩みを感謝し記念事業を実施する。
『70周年記念式典』の開催（日程：2024年10月19日 会場：盛岡グランドホテル）
70周年記念誌の発行
環境整備
- ・ 月ごとの聖句に基づいた月主題、及び毎週の礼拝の聖句等、各クラスで聖書のみことばの振り返りを大切に、聖句や主題をベースにした保育計画を実施する。
- ・ 関係教会の礼拝出席を大切に、礼拝から始まるキリスト教保育を推進する。
- ・ バイブルストーリーテリングの小田島氏（館坂橋教会CS）に礼拝の中で聖書のお話をしていただく機会を設定する。
- ・ 善隣館書店と連携し、理念に基づく絵本の読み聞かせやミニコンサートを開催する。

2) 保育の質の向上

- ・ チーム保育の充実
小規模園（利用定員65名）の強みを活かし、全保育者が園児一人一人の個性や良さを理解・共有し、家庭との円滑な連携を深め、チーム保育を充実させる。
- ・ インクルーシブ保育の推進
特別支援が必要な園児が多く在園しており、インクルーシブ保育を推進する。
専門機関の巡回支援や、児童発達支援事業所、自治体及び保護者との円滑な連携を深め、保育計画を整え個々の育ちを支える。
- ・ 子ども達の主体的な遊びが育める環境設定
個々の子どもが夢中になって主体的に取り組むことのできる遊び環境設定に取り組む。
指導計画等の長期的な視点と、日々の子どもの表情や思いに共感し、こどもたちが「やってみたい」という主体性や自発性が発揮され自己肯定感が育まれるための環境づくりを研究し行う。
- ・ 保育業務 ICT 化への取り組み推進
保育業務の ICT 化を推進により、各種記録やドキュメンテーションのあり方の研究及び、ICT 活用により保育の可視化、保護者との連携を深める。
- ・ 子育て支援機能の充実
未就園児サークルを、盛岡市内4園で共同企画、善隣館書店との連携も活かして、地域に開かれた子育て支援機能を展開する。
- ・ 保育の質の向上を目指した各種研修（園内外）への参加
保育者が前向きに取り組めるように、園内研修のあり方を工夫し、職員同士が互いに高め合って保育の質の向上に繋げる。盛岡市内4園の教職員研修を行う。
- ・ 自己評価、学園評価の実施と振り返り、教育・保育の質の向上に繋げる
学園評価を受査する年度である。「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の理解を深め、自己評価、学園評価の振り返りを保育の質の向上に繋げる
- ・ 幼小連携の推進
卒園生同窓会や、小学生交流会を開催する。

2) 連携施設としての機能充実

- ・ 盛岡市内4園でひとつの組織図の中で運営を行い、人事交流や定期的に合同の運営委員会や研修会を行い、運営や保育計画、年間計画の充実を図る。
- ・ 上堂ホサナ保育園の進級先、連携施設として0～5歳の育ちを支える。また合同保育（ファミリーオリムピックや収穫感謝礼拝他）の機会を設ける。

4) 70周年記念事業としての環境整備

- ・ 築30年経過による経年劣化箇所の修繕及び環境整備をはかる。
屋根の塗装、ホールの床修繕、年少組テラス及び玄関靴棚の改修

遠野聖光こども園
2024 年度事業計画

1. キリスト教保育の推進
『非暴力の教育』などキリスト教保育の著書の読み合わせをするなど、改めてキリスト教保育に学び、実践できるよう心がける。
2. 園舎の補修・改修
100 周年事業として 3 歳以上児棟の外装は修繕したが、内装の補修・改修を計画したい。園舎内の断熱効果を上げること、あるいは改修し、無駄なく効果的な園舎となることを目指す。
3. 自園給食の実施
東北フードサービスとの契約が 4 月で終わるため、5 月より自園給食となる。委託事業の時よりよりよい給食を目指す。当座は、宮古ひかりと連携し、献立、調理などを充実し、2024 年度内にすべての給食業務を自園で行うことを目標とする。
4. 子育て支援事業・子ども第 3 の居場所事業の展開を考える。
子ども食堂等の事業を見学し、実施に向けた準備を行いたい。
子どもの居場所作りを検討したい。
5. 園長人事に関して
次期園長が見つかるまでのリリーフとして園長業務を担っているが、2024 年度で 5 年目に入る。常任理事や日本キリスト教団奥羽教区岩手地区教師会等とも密に連携をとりつつ、人事に関する今後の展望を模索する。

【2024 年度認定こども園ひかりの子事業計画】

1 理念の実現のために

この地域に遣わされるキリスト教保育施設として、子どもの育ちの中で幼子に神さまの愛を伝え、愛され受け入れられる存在であることを知ることがこれからの人生の基礎を培う大切な時期であるとの認識を全ての教職員が理解し、その理念の実現のために一人一人が仕事に努めることができるよう、園内はもちろん地域に保育の場を広げ、環境による保育を推進していく。そのため、キリスト教保育の充実、教育・保育目標に基づく保育の質の向上、教職員にとって働きやすい環境にすることを重点におき、以下のように 2024 年度事業計画を策定する。

2 計画

2-1 運営体制について

・キリスト教保育の充実

キリスト教保育を行う施設で働く者として関係教会の主日礼拝出席を重んじる。

日々のお祈りと賛美を通して目に見えないものを大切にする心を育てる。

・職員の資質向上の取り組み

保育の基本となるキリスト教保育関係の研修や園内の研修および外部研修などの研修に積極的に参加し、様々な専門性を保育に反映させる。そのため、ステップアップを目指し職員自ら学びを深めたい研修を探して受け、保育の質と職員の資質向上に繋がるようにする。

・各プロジェクトの充実

業務負荷にならないように改善を図りながら、ひかりの子ライブラリー(図書委員会)、study + (園内研修委員会)、アトリエ cami * cami(紙漉)、e-shining(職場環境向上委員会)、ピカッと守り隊(防災・防犯委員会)の活動を通して課をこえての交わりとそれぞれの立場からより良い園・保育・職場環境の向上を目指す。

・子育て支援の充実

認定こども園の特質を活かし、地域のニーズに根ざしたより現実的でより身近な子育て支援と地域の方々との交流を図るために模索する。「子育て支援カフェ」はこの地域においてのひかりの子ならではの独自性の発信方法の模索する。子育て支援施設の建設を目指す。また、フリースクール「こといろ」の不登校の児童(生徒)の心身の成長を支える「居場所」としての働きを継続する。継続的な支援のため、運営体制の安定を図る。

・アガペ保育園との連携の充実

保育内容、保育体制、保育・あそび環境において互いに刺激し合いながら保育の質を高めていく。

2-2 保育内容について

・「合同保育」を振り返り、子どものための保育体制と内容を試していく。

・「コーナー保育」「園庭や園外での遊び」「異年齢保育」の充実

子どもたちが自ら環境に働きかけ、主体的な遊びや異年齢交流の中で互いの個性や違いを尊重し、共に育ちあう保育の充実を図る。

・「ドキュメンテーション」の充実

保育を振り返り、子どもの見方や様々な視点を共有していき、子どもの発達、今の育ち、大切に保育しているところを分かりやすく、可視化して発信していく。

・子どもたちの最善の利益の観点からの保育・保育の記録・遊び環境・行事の見直しを可視化し、簡素化・ICT化を図る。

・園発信の幼小連携を図る。近隣の小学校の先生方を招き、情報交換などを行う。

2-3 園環境の整備

・園庭と外の玩具の充実を図る。未満児の手作り遊具・絵本の充実を図る。

・子育て支援施設建設に着手し、オープンまで目指す。

2024年度幼保連携型認定こども園 のぞみこども園 事業計画

1. キリスト教保育の充実

- ★神様と人々に愛されていることを感謝する子ども
- ★よく考え豊に感じのびのび表現できる子ども
- ★それぞれの違いを認めあい思いやりの心を養い希望をもって生きる子ども

上記3つの理念（Mission Statement）を念頭に、0歳児から5歳児までの各年齢に応じたキリスト教保育のあり方を、機会を捉えて諸研修会での学びに励み充実を図る。

2. 特色ある教育に努める

- ①菜園（借地・三田農林株式会社）で野菜・花等を楽しむ。幼児期より食の大切さを知り、作物をつくる喜びを味わう。
- ②体育専門講師による身体を動かす喜びを経験する。
通常保育に出来ない身体を思いっきり使った運動をし、身体能力の向上につとめる。
- ③地域との交流 町内会の文化祭に作品出展、敬老会での歌・ダンスを通して交流を深める。
- ④老人施設「ぬぐまるの家」との交流（年長児）
歌、ページの披露等。高齢者との交流を通して豊かな成長をうながしたい。
- ⑤幼小連絡会（架け橋プログラム）への積極的参加
特に年長児が小学校へのスムーズな進学にむけ、安心して出来るよう連携を深める。

3. 教育・保育と人事の活性化

①教育・保育

- ・質を高めるために、過去の自己評価項目を精査し、互いに成長できるよう研鑽を積む。学園評価・市監査の指摘事項を検証して取り組む。特に非認知能力を伸ばすための研修等により「生き抜く力」を子ども達が得られるよう援助する。
- ・保育の質の向上を目的とした園内外への各種研修会に参加する。園内研修のあり方を工夫し、教職員同士が互いに高め合って保育の質の向上につながるよう努力する。加えて盛岡市内4園の教職員研修を行う。

②人事・育成

- ・盛岡市内4園で連携を深め、人事交流や定期的な合同運営委員会の開催、研修会等を行い運営や年間計画の充実を図る。

4. 園の特質を活かしたあり方を模索する

- ①教職員のキリスト教保育への取り組みの第一歩である礼拝生活の拡充への取り組みをする。
- ②学童保育開設7年目にあたり、さらに児童・保護者の必要に寄り添うため保育環境を整える。
- ③子育て支援のさらなる充実を図り、市内4園協力し地域の未就園児家庭の支援をする。

宮古ひかり・ぶどうのき

2024 年度事業計画

1. キリスト教保育の推進
『非暴力の教育』などキリスト教保育の著書の読み合わせをするなど、改めてキリスト教保育に学び、実践できるよう心がける。
2. 職員体制の充実
保育者不足が顕著となっている。正規雇用の保育者の採用がここ数年出来ていないため、奨学金制度等の導入などを行い、保育者の確保を目指す。
3. 園庭の充実
宮古ひかりの園庭作りを行い、子どもたちの遊びがより豊かになるように取り組む。
4. 子育て支援事業・子ども第3の居場所事業の展開を考える。
児童発達支援管理責任者や子育て支援員などの資格取得を目指す。療育、放課後等児童デイサービスなどの展開がどこまで可能かを検討する。児童デイサービスと学童はできれば、両方行えることも視野に入れる。
子ども食堂、フードバンクや子ども第3の居場所など、様々な子どもたちが安心して過ごすことができるよう居場所作りを考える。
5. 山口保育所の民間移管の検討
宮古市より公立保育の民間移管が公募されている。
この公募に応募することが良いのか、しっかりと検討し、必要に応じて応募する有無を判断する。
6. 宮古ひかり・ぶどうのき連携について
職員不足等に状況があることもあり、宮古ひかりとぶどうのきの連携のあり方を検討実施する。特にアドバイザー派遣の仕方、また合同保育のあり方などを検討し、実施する。

2024年度 上堂ホサナ保育園 事業計画

計画：

- 1 キリスト教保育 キリスト教保育を理解し、一人ひとりにあたたかい愛情を注ぐ。
 - ・職員 …キリスト教保育誌を元に保育観の共有、礼拝出席を重んじ学びを深める。
 - ・子ども…お祈り、讃美歌、子ども礼拝、館坂橋教会・教会学校「バイブルストーリーテリング」を通し、神様を身近に感じる。(バイブルストーリーテリングは5回とする)
 - 牧師先生のお話に触れる機会(こども礼拝・行事等)を持つ。
- 2 保育環境の改善と質の向上
 - ・感染対策を緩めることなく、創意工夫しながら、子どもたちのこの時期にしか出来ない経験の機会を大切に丁寧な保育を心掛ける。
 - ・発達、興味にあった絵本(読み聞かせ・子ども自身がいつでも自由に手に取って試みることが出来る)、遊び、玩具(手作り玩具)を用意し、遊びを豊かにする。
- 3 連携施設との交流の場をもつ
 - ・小規模園だけでは体験できない活動に参加し、連携園の友だちと触れ合う。
 - ・連携園との関わりを大切にし、進級後の育ちを円滑にサポートできるようにする。
…運動会 焼き芋会 交流遊び への参加
交流遊びの機会、行事等部分参加の機会を連携園と相談し増やしていく。
- 4 保護者支援の在り方
 - ・送迎時の会話、おたより、連絡ノート、写真の掲示コーナー等、保育園で過ごす様子を引き続き、細やかに伝えていく。
 - ・在園児の保護者を対象とした「子育て支援カフェ」や未就園児対象の見学会を開く。
 - ・保護者懇談会、保育参加の実施、保護者同士の交流の機会をもつようにする。
- 5 地域の方との関わりを大切にする
 - ・園を開放し、地域の方との触れ合いの場を持てるようにしていく。
 - ・花の日礼拝・勤労感謝の日には、日頃より見守って下さっていることに感謝の気持ちを表し、製作物をプレゼントする。避難訓練では地域の方との連携を図れるようにしていく。
 - ・盛岡市内4園の企画で地域における子育て支援活動を推進する。
- 6 ホサナ保育園・園内行事
 - ・作年度の実績を踏まえ、無理のない範囲で新しい行事を取り入れる。
進級祝い会 ・イースター礼拝・春のお散歩会・ホサナリンピック・クリスマス祝会
卒園を祝う会 ・卒園式
- 7 運営の健全化を目指す。
 - ・昨年度に引き続き、優先順位を考えながら収支のバランスを整えていく。
 - ・入園に繋がる活動を、連携園と共に活動を展開する。

【2024 年度アガペ保育園事業計画書】

理念の聖句：「ひかりの子として歩みなさい」 ～エフェソ 5:8～

【 **理念** ～どのような子どもの育ちを願うのか～】

「自己肯定感がもてるこども」自分がそのままの自分でいいと思う心を持ち、受け入れられる経験を積み重ね、互いに受け入れ、共に生活し、豊かな関わりを通して自己肯定感がもてるような保育を目指す。

保育目標

- ・感謝する心・共に育つ力・個性を認め合う生活

私たち一人一人が神さまに愛され、受け入れられていることを知り、子ども達をしつかりと受け止め、否定するような言葉を使わない保育を行う。そして、そのような保育をするにはどうしたらよいか自問自答を繰り返しながら保育にあたる。

計画

1-1 キリスト教保育

- ・キリスト教保育を行なう施設で働く者として、関係教会の主日礼拝出席を重んじる。
- ・月の聖句を園内研修で積極的に学び、子どもたちと共に暗唱し保育にあたる。
- ・お祈りと賛美を通して目に見えないものを大切に作る心を育てる。

1-2 運営体制

- ・職員間の連携

クラス、アガペ全体の一日の流れや動きを見直し、子どもたちの目線・動線を考えた保育者間の動きや空間の使い方等を確認しながら職員間の連携を深めていく。

- ・保護者支援

子育て相談の充実を図り、子どもの育ち、発達の理解を保護者と共有できるようにケースバイケースを作っていく。

週報で遊びや生活のドキュメンテーションを載せ、そしてアガペの黒板スペースに子どもの姿や写真を積極的に発信しながら子どもの発達の理解を促したり、丁寧な保護者対応を意識していく。

- ・保育の質の向上

未満児発達の特徴や専門的な知識を深めるため、先ず保育者自身の学びの充実を図る。自ら受けたい研究をうけ、スキルアップを通して保育の質の向上を図る。

- ・地域への発信

園外保育・散歩や地域の方との交流を通してアガペの認知度を高めていく。

子育て支援カフェとの連携を通して地域の子育て中の保護者向けに園開放を行う。

- ・ひかりの子との連携

保育・環境・子ども・遊びをお互い交流しあい保育の質を高める。

1-3 保育内容

- ・0 才児：生理的な欲求を十分に満たし、一人一人の生育歴の違いに留意しつつ、応答的に関わる保育を行なう。
- ・1・2 才児：少人数での保育や異年齢保育を保育内容によって分けながら保育が充実したり、ひかりの子の同じ学年との交流をもち、経験させたいことや支えたいところを共有し、一人一人の発達にあった保育を行なっていく。

1-4 保育環境

- ・早朝と夕方の遊び環境を工夫し「今の姿」に合った玩具や手作り遊具を充実させる。
- ・園庭での遊びを満足させるための道具の充実を図る。

2024年度 きたくり保育園 事業計画

【保育理念】

「隣人を自分のように愛しなさい」(マタイによる福音書 22 章 39 節 新約聖書に他 7 回)

- ・自分を大切にします(自己肯定感)
- ・人を大切にします(人権・命の尊厳)
- ・豊かな仲間作りを目指します(共生)
- ・挑戦する力を育てます(非認知能力)

【計 画】

① キリスト教保育の推進

- ・教職員がキリスト教保育について理解を深めるための学びの機会を積極的に設け、目に見えないものを大切にする保育の実践に向かう心を育てる。
- ・保育の中で讃美歌や御言葉に触れる機会を設ける。(バイブルストーリーテリング小田島先生による聖書のお話会など)

② 保育の質の向上

- ・保育体制を整えながら、子どものための保育のあり方について検討していく。
- ・盛岡市内4園で連携を深め、人事交流や定期的な合同運営委員会の開催、研修会等を行い運営や年間計画の充実を図る。
- ・保育の質の向上を目的とした園内外への各種研修会に参加する。園内研修のあり方を工夫し、教職員同士が互いに高め合って保育の質の向上につながるよう、盛岡市内4園の教職員研修を行う。

③ 保育環境・園庭の整備

- ・昨年度末から始まった外構工事に続き園庭の整備に着手し、年度内の完成を目指す。将来的にどのような園庭を目指していくのか、園内に教職員による園庭整備のプロジェクトチームを立ち上げる。

④ 行事関係

- ・移管前の行事を見直し、キリスト教保育ならではの行事を年間計画に盛り込むとともに、特にクリスマスに関わる行事については園内の環境設定などに力を入れ、園児や保護者に伝わりやすいところからキリスト教保育の素晴らしさを伝えていく。

⑤ 子育て支援

- ・盛岡市内4園による連携のもと、定期的な子育て支援の場を地域に提供する。

⑥ 地域連携

- ・引き続き町内会や自治会といった地域住民との繋がりを大切にし、地域の資源をいかした関わりを実施する。(サマーフェスティバル(仮称)の案内等)

⑦ 経営の健全化を目指す

- ・教職員の配置を見直し、収入に対する人件費支出のバランスを図る。保護者の幅広い保育ニーズに対応するため、認定こども園化に向けての道を整えていく。